

長崎県立長崎鶴洋高等学校 平成25年度 学校評価表(自己評価)

※評価基準

各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。(総合評価は各学期の平均《小数第1位を四捨五入》を記入)
 4:十分達成できている 3:おおむね達成できている 2:どちらかというと達成できていない 1:ほとんど達成できていない。

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営に対する教育成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
①規範意識を育てる	「非行防止教室」等の講演会を通じて、情報モラルの定着を図る。	2.9	3.2	3	3	社会の規則や校内のルールを守ることのできない生徒に対し、継続した個別指導を徹底して行う。
	学校や社会のきまり・ルールを守ることの意義・重要性について、すべての教育活動を通じて繰り返し指導を行うことにより、生徒の規範に対する認識と理解の向上を図る。	3	3.2	3.1	3.1	
	指導にあたっては、すべての職員が、毅然とした態度で指導する。また、カウンセリングマインドを持って生徒と親身に接し、生徒の悩みやつまづきに適切な対応をする。	3	3.1	3.1	3.1	
②基本的生活習慣の定着を図る	生徒指導部、ホームルーム担任を中心に家庭と連携し、全職員で遅刻・欠席の指導を徹底する。	3.3	3.4	3	3.2	遅刻者の指導を、生徒指導部だけではなく当番制などによって全職員で行う必要がある。 服装・頭髮指導、挨拶・礼法指導に関しても、普段から全職員で取り組む必要がある。
	服装・頭髮指導を徹底する。	3.2	3.1	3	3.1	
	挨拶、適切な言葉遣いや身だしなみができるよう、全職員で適宜指導する。	2.9	3	2.8	2.9	
③わかる授業で基礎学力の定着を図る	生徒一人ひとりの学力を把握し、個人指導も含め生徒のつまづきを指導する。	2.9	3	2.8	2.9	ユニバーサルデザインの授業を継続して行う。
	生徒の授業評価をもとに授業改善に努め、学習意欲を高める授業を展開する。	2.9	3	2.9	2.9	
	各教科・類型の年間指導目標を明確にし、具体的方策に従って指導する。	3	3.1	3	3	
④生徒一人ひとりの進路実現を図る	基礎学力向上のために授業や補習の充実を図る。	3.1	3.1	3	3.1	夏季補習やマナトレを実施し、基礎学力の向上が見られた。次年度も引き続き実施していく必要がある。
	生徒一人ひとりが、自己の生き方を考え、職業についての知識をひろめ、自分の進路に主体的に取り組めるようサポートする。	3	3	3.1	3	
	生徒一人ひとりが、自己表現をすることができる確かな学力を身に付けるよう指導する。	2.8	3	2.9	2.9	
⑤キャリア教育の充実を図る	3年間を通した組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容について研究を深める。	2.9	3	3	3	水産科及び総合学科の特性を本当に生かしているかの検証が必要である。
	生徒が自己の目指す将来の職業やその分野に関する具体的な情報を得たり、必要な資質・能力をより深く自覚し、専門的な知識・技能を一層高めようとする意欲や姿勢を身に付けさせる指導を行う。	3	3.1	3	3	
	就業体験等を通し、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観・職業観を育成する。	3.1	3.1	3.1	3.1	
⑥特別支援教育の充実を図る	授業や教育環境におけるユニバーサルデザインの推進に努める。	3.1	3.4	3.1	3.2	公開授業や研究授業、中間発表の時だけの取り組みという感が否めない。意識をもって、また、継続することが大切である。 掲示板の使い方に関しては、再検討が必要である。
	通常学級内における個別の支援計画の策定と職員間の情報共有を図る。	2.7	3.1	3	2.9	
	職員研修の充実と中間発表に向けた全職員の意識高揚を図る。	3	3.4	3.2	3.2	

2 学年経営

学年経営全般における計画的・組織的な教育成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
①1学年	基本的生活習慣を確立させ、思いやりのある心を育成する。	3.3	3.1	2.8	3.1	基本的生活習慣が確立されていない生徒が多いなか、問題行動の件数が減った。学習面においてもマナトレや夏季補習を実施したことで基礎学力の向上が見られた。この成果を詳細に分析して、次年度以降も継続していく必要がある。
	基礎学力の向上を目指す。	3.3	3	2.6	3	
	生徒の希望進路に応じた類型(水産科)及び科目(水産科、総合学科)を選択させる。	3.4	3.2	3.2	3.3	
②2学年	服装・頭髮違反生徒の指導を充実させ、端正な身なりで学校生活を送らせる。	3	2.8	2.9	2.9	基礎学力の向上のためには、家庭学習の習慣を身につけさせ、また、目標(国家試験等)を持たせることで継続的に取り組む必要がある。次年度は進路希望の実現に向け、一層のきめ細やかな指導が求められる。服装や頭髮に関しては、特定の生徒が毎回指導を受けている。違反通知書の効果を上げる方策を検討しなければならない。
	集団行動を意識させ、自己中心的な行為をさせない。	2.8	2.9	2.9	2.9	
	家庭学習の習慣を確立し、学力を向上させる。	2.8	2.6	2.5	2.6	
③3学年	素直で何人にも愛される人格を育成する。	3	3.5	3.1	3.2	心の講話などを通して、心穏やかで素直な人間へと導くことができた。進路指導については、学年で情報交換を密にしながら協力して取り組めた。これからの人生を豊かな心で過ごせるようお願いを込めて、「生きるために、お金についての考え方、成功するための手法、夢の実現方法」についての講話を行った。
	進路実現のための目標を設定する。	3.1	3.5	3.3	3.3	
	学ぶ心、望ましい勤労意識を育成する。	3.1	3.3	3.1	3.2	

3 校務分掌

各校務分掌の教育活動全般における計画的・組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
教務部	水産科の類型、総合学科の系列及び生徒の多様な進路に対応した教育課程の編成を行う。また、本校独自の適切な学校設定教科・科目を設定する。(教育課程)	3.2	3.5	3.3	3.3	進路指導部と連携して行った基礎学力の向上に向けての取り組みは、一定の成果があった。次年度も更なる学力向上のため継続して実施する必要があるが、家庭学習の定着と習慣化につなげられるような仕掛けも必要である。
	基礎学力の向上及び家庭学習の定着と習慣化を図るための対策を講じる。(基礎学力向上)	2.9	3.4	3	3.1	
	乗船生徒への事前指導の徹底や情報交換を密にすることで、乗船中の事故や問題行動をゼロにする。また、乗船実習における訓練記録簿の効率的な活用に努め、寄港地活動を充実させる。(乗船教育)	2.9	/	/	2.9	乗船教育については、実習船と学校の連携を密にして、事故や問題行動をなくしていく必要がある。
	水産教育の実践的教育の場として、種苗生産や養殖技術を習得させるため水産生物の飼育・管理を充実させる。また、地域との連携を緊密にすることで多くの人が「水産」について学べる教育施設とする。(臨海実習場)	3.2	3.4	3.4	3.3	臨海実習場は、地域の需要が増えてきており、地域に根ざした施設になりつつある。
	NEWS(県立学校校務事務支援システム)への円滑な移行、情報セキュリティの徹底、ハードウェア及びソフトウェアの充実、校内LANの保守を確実に行う。(情報)	3.2	3.6	3.3	3.4	
	指導力の向上を目指して、人権教育や基礎学力向上の研修会を企画・実施する。経過研修、センター研修その他の研修の案内を確実に行う。(職員研修)	3.1	3.3	3.3	3.2	
	1・2学期末に「授業に関するアンケート」を実施し、生徒、教職員ともに授業改善の一助とする。(授業アンケート)	3.2	3.5	/	3.4	
	かけがえのない自他の生命を尊重する心の育成を目指し、人権学習や平和学習等を企画・実施する。(心の教育)	3.2	3.5	3.2	3.3	

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
企画広報	保護者の学校行事への参加を促す。	3.1	3	3.3	3.1	業務内容を検討し、年間をととしてバランスよく配置する必要がある。メールシステムの登録者の増加が課題である。広報活動は、随時ホームページを更新し、学校便りも計画どおりに発行することができた。
	教務部との連携を密にし、ホームページを充実(更新)させ、学校の様子を随時公開する。	3.4	3.6	3.5	3.5	
	学校便りを年10回発行し、中学校や学校近辺の自治会に配布する。	3.4	3.6	3.7	3.6	
	広報用ポスターを作成し、学校近辺の中学校へ展示する。	3.3	3.5	3.2	3.3	
	地区別学校説明会の実施場所、時期と内容を検討し、昨年度以上の参加者増を目指す。	3.1	3.6	3	3.2	キャリア教育における企画広報部と学年とのつながりを考えた計画作成を検討していく必要がある。総合学科におけるキャリア教育について、計画を消化するだけに終わっていた。特にインターンシップについては前年度からの計画的な実施が必要である。
	1年生では、自己理解、産業・職業理解にもとづく、将来のキャリア設計を描かせ、適切な類型選択・科目選択を支援する。	3	3.3	3	3.1	
	2年生では、体験的な活動等により社会の仕組みや産業・職業への理解を深め、自己の適性や能力に気づかせ、望ましい勤労観・職業観を育てる。	3	3.3	3	3.1	
	3年生では、各個人・グループが設定した課題に基づく探求的な学習活動により、自己の在り方や生き方を考察させる。	2.9	3.1	3	3	
	水産科・総合学科全学年による生徒総合発表会を3学期に実施し、表現・発表力を養う。			3.2	3.2	
生徒指導部	日課を守ることで、基本的生活習慣を身に付けた寮生を育成する。	3.6	3.7	3.1	3.5	生徒指導部内で協力して業務が遂行できた。問題行動の対処ばかりのイメージがあるが、進路実現に向けた生徒指導を目標に、生徒達に接する機会を積極的に行った。年度後半に欠席・遅刻の数が増えてきたので、原因等を分析し対応を検討しなければならない。各行事においては、生徒指導部が率先して動き学校全体を引っ張っている。生徒指導は全職員が行うべきことで、生徒指導部に任せっきりでより良い学校づくりは実践できないと感じている。
	団体生活を意識させ、他人に迷惑となるような行為をしない寮生を育成する。	3.6	3.4	3	3.3	
	授業開始時刻を守らせる。	3.7	3.6	3.1	3.5	
	服装頭髪指導を徹底する。	3.7	3.3	3.1	3.4	
	特別指導(事後指導)を充実させる。	3	3.4	3	3.1	
	地域等からの苦情等は真摯に受け止め、的確に対応する。	3.6	3.7	3.6	3.6	
	登下校指導と校内外の巡視を強化する。	3.6	3.4	3.1	3.4	
	生徒指導ハンドブック、危機管理マニュアルを活用し、教職員間の共通理解に努める。	3.3	3.3	3.1	3.2	

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
進路指導部	自己実現を念頭に置いた学力向上の重要性を生徒に認識させ、安易な進路選択に陥らないための指導を試みる。	2.7	3	3	2.9	基礎学力対策としてマナトレを初めて実施した。2学期に基礎学力確認試験を行い、基礎学力の向上が数値で表れた。進路決定にも大きな効果があったものと思われる。
	進路情報の提供を通して、生徒の自己理解と進路に対する関心を高めさせ、主体的な進路設計や選択する力を育成する。	2.8	3.1	3.1	3	
	生徒一人ひとりの情報を共有し、早めの意識付けと進路実現に必要な知識や能力の向上を支援する。	2.8	3.2	3.1	3	学校紹介による就職希望者は、全員が卒業までに企業より内定を戴くことができた。
	生徒、保護者、企業との連携を図り、就職に関わる情報交換を密にする。	2.9	3.3	2.8	3	
	「進路ノート」を3年間通じて活用させ、進路実現に向けて段階的に就職活動の支援を続ける。	2.8	3.1	2.6	2.8	進学希望の生徒も合格することができた。進学希望者一人ひとりへの支援のために、新しく「進路検討会」を立ち上げた。学年毎の担当者を配置したが、指導不足で会議は開催できていない。共通理解の観点からも実施が必要であると痛感している。
	就職希望者について、12月までに内定率100%を目指す。		2.7	2.7	2.7	
	キャリア教育の充実を目指して企画広報部との連携を図り、生徒の望ましい勤労観、職業観を育成する。	2.8	3.2	2.8	2.9	
生徒会指導部	生徒会活動及び学校行事をととして、生徒の自主精神を高める。	3.2	3.3	3	3.2	生徒会役員においては、毎週部会を開き、連絡・確認を行い、生徒会活動の連携を図ることができた。しかし、今年度は役員数が少なく、大がかりな作業をする際に苦労する場面も見受けられた。後期の専門委員会は行ったものの、その報告をする機会を持つことができなかった。掃除の時間に県歌を放送して、掃除の時間の定着を図った。次年度も曲目を選定しながら実施していきたい。生徒会誌の作成においては、早めに準備をして取りかかったため、予定どおりに作成をすることができた。
	部活動の活性化とPRを図るため、生徒会と部活動顧問・ホームルーム担任との連携に努める。部活動の結果は、逐次HPに掲載する。	2.8	3	2.8	2.9	
	各分掌と協力して委員会活動を行う。1学期に1回は委員会活動を行い、各クラスの専門部を行動させる。	3	3.2	3	3.1	
	地域社会に貢献するボランティア活動や地域の行事に積極的に参加させる。	2.9	3.4	2.4	2.9	
	日々の掃除活動を徹底させる。	3	3	3	3	
	分別収集を習慣付けさせる。	3	2.9	2.8	2.9	
	大掃除は全員で取り組み、更衣をして行わせる。	3.2	3.1	3.2	3.2	
	生徒指導部等、他の分掌の連携に努める。	3	3	3.2	3.1	
	生徒の興味・関心・希望を考慮した図書を選書し、購入する。	3.3	3.2	3.4	3.3	

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
教育相談部	カウンセラー便りを発行し、生徒や保護者に対して情報を提供する。	3.4	3.3	3.2	3.3	「高等学校発達障害等生徒支援推進事業」の取り組みは、全職員の協力によって中間発表を終えることができた。研究発表の準備に追われ、肝心の相談業務が疎かになってしまうこともあった。毎月の遅刻・欠席のチェックを行ったが、それを踏まえた面談等が十分ではなかった。複数の別室登校生徒が出た時に、養護教諭に頼り切ってしまうなど、教育相談部としての組織的な対応が十分ではなかった。アセス(学校適応感尺度)を初めて実施したが、その結果を十分に活用するまでには至らなかった。次年度は、わかりやすく有効な活用法を明示していきたい。生徒のニーズに応じた「個別の指導計画」の作成や活用法も検討していきたい。
	スクールカウンセラーの来校日と相談時間を公開することで、生徒・保護者・教職員が相談しやすい環境を作る。	3.3	3.3	3.3	3.3	
	毎月欠席5日以上、遅刻3回以上の生徒に対して、ホームルーム担任と相談のうえ、面談等の措置をとる。	2.9	2.6	2.5	2.7	
	各種検査や悩みの調査を実施して、その分析結果をホームルーム担任に伝え、生徒理解のための情報を提供する。	3.1	2.9	3.3	3.1	
	支援の必要な生徒に関する情報交換を、ホームルーム担任や生徒指導部と綿密にすることにより、不適応の早期発見と支援に努める。	3	3.3	3	3.1	
	生徒の実態把握調査をもとに、支援を必要とする生徒について適切な情報を提供する。	3	3.1	3	3	
	保健便りを月1回発行し、生徒・保護者に感染症防止を含めた健康増進を啓発する。	3.8	3.8	3.8	3.8	
	校内施設安全点検を年2回実施し、危険箇所をチェックする。	3.2	3.3	3.3	3.3	

4 道徳教育 各分掌、学年、教科における道徳教育の成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
道徳教育	学校行事やボランティア活動への積極的な参加を促し、他に協力することや人を思いやることの大切さを学ばせる。	3	3.1	2.8	3	様々な学校行事や特別活動、講話などの機会を得て、ほとんどの生徒は基本的生活習慣や規範意識が身につけてきている。資格取得については、生徒への強力な働きかけが必要である。
	平和教育講話や人権教育講話を通して、規範意識と他を尊重できる良識ある判断力・行動力を持った生徒を育てる。	3.1	3.2	3	3.1	
	各授業や特別活動、総合的な学習の時間を通して挨拶・容儀指導を行い、基本的生活習慣を確立した健康な心身をもった生徒を育てる。	3.1	3.1	3	3.1	
	目標とする資格取得に取り組ませ、達成感や自己肯定感を高めさせる。	3.1	2.9	3	3	

5 開かれた学校 保護者や地域等との連携における教育的成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
開かれた学校づくり	PTA総会や地域開放講座などを利用し、保護者、地域住民向けの行事を企画する。	3	3.3	3	3.1	学校便りは、地域の方々の学校理解へとつながった。スクールカウンセラーへの相談件数も多く、学校・保護者(生徒)・スクールカウンセラーが密に連絡を取りあった。
	学校便りを発行し、保護者のみならず、町内など近隣の自治会などにも配る。	3.2	3.5	3.2	3.3	
	子育てについて保護者がスクールカウンセラーに相談できる機会を計画的に設け、保護者に案内する。	3.1	3.4	3	3.2	

6 特別支援教育 各分掌・学年・教科(授業)における特別支援教育の成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
特別支援教育	発達障害の職員研修会を実施し、発達障害のある生徒について理解を深める。	3.2	3.5	3.4	3.4	4月、7月、10月(2回)、12月と年間5回の職員研修会を実施した。この中で、支援が必要な生徒についての理解が深まっていった。第1、3、5回のグループ討議では、活発な意見交換がなされた。すべての教員がユニバーサルデザインの授業に取り組み(公開授業97講座)、検討を重ねながら個別の指導計画を作成した。これを適切な進路指導に役立てるためにも、生徒の実態を把握した上での綿密な教材研究と工夫された授業展開が求められる。
	各教科ですべての生徒にとってわかりやすいユニバーサルデザインの授業を考案する。	3.2	3.5	3.1	3.3	
	個人の特性に応じた進路指導のありかたを検討し、適切な類型及び系列の選択、就職及び進学の手導を行う。	3.1	3.3	3.1	3.2	

7 人権教育、環境教育 人権教育、環境教育の取り組みの成果の評価

評価項目	具体的目標	評 価				成果と課題
		1学期	2学期	3学期	総合評価	
人権教育	人権・平和学習に関する集会・講話をととして、周囲や相手のことを思いやって生活することのできる生徒を育てる。			3	3	ロッカー周辺のちらかり、昼休み後の教室の汚さが目立った。
環境教育	毎日の清掃活動や地域清掃などをととして、節水・節電・ゴミの分別を自主的に実践することのできる生徒を育てる。			2.9	2.9	

<学校評価表作成要領>

- ① 1 学校経営については、校長が評価項目を定め、各評価項目について具体的目標を挙げる。
- ② 2 学年経営、3 校務分掌については、各学年・分掌で検討し、H25努力目標(校長作成)に基づいて具体的目標をそれぞれ挙げる。
- ③ 4 道徳教育については、H25道徳教育全体計画に基づく道徳教育の重点目標を挙げる。
- ④ 5 開かれた学校については、校長が具体的目標を挙げる。
- ⑤ 具体的目標の原案については、運営委員会・職員会議において、H25努力目標にきちんと基づいているかを検討する。
- ⑥ 具体的目標の評価は各学期末、総合評価は年度末に行う。また、評価項目全体における成果と課題は、年度末に記入する。
- ⑦ 保護者・生徒へのアンケートを3学期に実施する。

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	①今年度は、基礎学力向上のためにマナトレを導入し、また、全員対象で夏季補習(4週間)を実施した。基礎学力向上対策の成果は十分に見受けられたが、生徒に目的意識を持たせること、マナトレや補習の在り方や取り組み状況に関しては、全学年とも低い評価であった。特に2年生の取り組みと成果に課題が多く、検証が必要である。 ②PTA活動に関しては、毎年度のことはあるが、役員以外のPTA活動や学校行事に対する関心が低い。PTA総会の時に学年PTAも併せて実施したが、自動車学校入校説明会(3年)の時のみ出席して、総会には欠席という保護者も多く見受けられた。
来年度の改善策	①次年度も全学年でマナトレ及び夏季補習を実施する。更なる学力向上のために何が必要かを、進路指導部・各学年・教科が連携して、問題点をだし改善策を検討する場を設定する。1・2年次から進学・就職対策としてPTAによる模擬面接や外部講師による講演・講話を開催し、進路に対する意識付けを行う。 ②PTAの行事や活動に対する広報活動を一層強化する。現在、メールメイトによって学校行事やPTA活動の情報を発信しているが、その加入者が約半数(301/650)なので、加入者を増加させる方が急務である。また、ホームページの更新を随時行い、学校の情報を発信していく。